

平成 16 年度老人保健健康増進等事業報告書  
(介護保険制度の適正な実施及び  
質の向上に寄与する調査研究事業)

地域での各種サービスのあり方とサービスの質の確保に関する研究

「家族支援ボランティア養成

研修講座プログラムの効果検証事業」

報告書

平成 17 年 3 月

社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)

はじめに

平成 16 年度は、認知症ケアにおいて、エポックメイキングとなる年であったといえます。それは、「痴呆」という名称が「認知症」という名称に変更になったことです。名称変更の背景には、「痴呆」という名称が、侮蔑感を感じさせる表現であること、「痴呆」の実態を正確に表していないこと、早期発見・早期診断等の取り組みの支障になることといった理由が指摘されます。この理由を受け、「認知症」という名称に変更されたのです。

名称が変更されたことで何が変わるのか、と考える方々もいるかと思いますが。これは「変わる」のではなく「変えていく」ことが大切です。「痴呆」が有していたマイナスのイメージを払拭し、正しい理解、偏見のない理解がなされていくことが重要なのです。つまり、名称が変わっただけではなく、名称変更に伴い認知症ケアの考え方も、より良い方向に変わっていくことが重要です。その新たなスタートの年が、本年度であったといえます。

高齢者痴呆介護研究・研修センターも、平成 17 年 4 月より「認知症介護研究・研修東京センター」と名称変更がなされます。名称変更に伴い、より一層認知症ケアの質の向上と発展に寄与すべく、努力していく所存です。

ここに、平成 16 年度老人保健健康増進等事業のうちの介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業による報告書をお送りします。

本報告書の中で、一部名称において「痴呆」という表現を使用している場合がありますが、事業申請名称のためにそのような表記になっています。本文中は「認知症」と名称を改めて表記していますことご了承ください。

平成 17 年 3 月

＝目 次＝

序 章	研究の視点と課題	5
第 1 章	家族支援ボランティア養成研修講座プログラムのねらい	
1-1	家族支援ボランティア養成研修講座プログラムの概要	7
1-2	家族支援ボランティア養成研修講座と家族支援ボランティア (ケアフレンド)	9
第 2 章	家族支援ボランティア養成研修講座プログラムの効果検証のための調査 — ヒアリング調査にみる活動例の紹介 —	
2-1	ヒアリング対象者の背景	11
2-2	調査概要	11
2-3	調査結果	12
2-4	調査のまとめ	26
第 3 章	家族支援ボランティア養成研修講座プログラムの効果検証のための調査 — アンケート調査にみる結果 —	
3-1	調査概要	31
3-2	単純集計及びクロス集計結果と考察	32
3-3	集計結果 (クラスタ分析)	41
3-4	調査のまとめ	47
第 4 章	家族支援ボランティア養成研修講座プログラムの意義と今後の展開	
4-1	家族支援ボランティア養成の効果とボランティア自身の変化	49
4-2	地域たすけあい活動における家族支援のボランティア養成の意義	54
4-3	ケアフレンドの今後に向けて	57
まとめ	家族支援人材育成のための今後の展開	60